

「つくって伝える」学びの質的向上を目指した ルーブリック連動型Web教材の開発と実践

～タブレット型PCがある教室の学びの風景～

南島原市立長野小学校

教諭 田中 健太郎

1 はじめに

南島原市立長野小学校第6学年児童9名は「つくって伝える」学びの質的向上を目指したルーブリック連動型Web教材の開発と実践に協力するというので、7台のタブレット型PC（iPad2）をお借りしている。また、学校にはPC教室授業支援システムのリモート操作にタブレット型PC（iPad）が1台配備されており、さらに私の所有する1台を合わせるとちょうど1人1台のタブレット型PCの環境が実現している。

そこで、タブレット型PCを使ってどんな学習活動ができるのか、その実践事例と「つくって伝える」学びの質的向上を目指したルーブリック連動型Web教材を活用した新聞制作実践について紹介する。



iPadが1人1台の環境

2 タブレット型PCを使った学習活動の事例

(1) 手作りデジタル教科書

タブレット型PCはボタン一つですぐに起動し、直接画面をタッチして普通の教科書と同じようにめくるような感覚で目的のページを表示するため、子どもの思考を妨げない。さらに、拡大やページ内の移動がマウスやキーボード操作に比べてとてもスムーズにできる。

(2) 都道府県名クイズ・漢字クイズ

いろいろな教育用アプリケーションが開発されており、中にはゲーム感覚で子どもが夢中になって取り組めるものがある。授業の導入でモチベーションを高めたり、業前のスキルアップ活動に取り入れれたりすると効果的。子どもたちが休み時間に自主的に取り組む姿も見られる。

(3) ネット検索

モバイルデータ通信を使い、わざわざパソコン室へ移動しなくても教室の自分の机の上でネット検索ができる環境をつくった。パソコン室へ行くと子どもたちはパソコンを使うことが一番のねらいになってしまい、肝心の学習のねらいが達成できない場合がある。教室移動をなくし、シームレスで調べ学習へ移れるため、よりねらいを意識して学習に取り組める。

(4) スライド制作&プレゼンテーション

プレゼンテーション用のスライド制作では、画面を指でタッチする操作が子どもたちに直感的に受け入れられ、すぐに使いこなすことできた。マウスやキーボードを使って作業する場合に比べて、文字や画像をバランスよく配置するなど、スライドの構成も工夫しながら短時間で簡単に制作することができ、その分、発表の練習に時間を充てることできた。



全校集会「修学旅行発表会」

(5) マット運動 (体育)

カメラが内蔵されているタイプのタブレット型PCでお互いの練習を撮り合い、よいところを認め合ったり、課題を見つけたりした。同じようなことをデジタルカメラを使って実践したことがあるが、デジタルカメラの画面では小さくて見えづらい。かといってパソコンやモニターにつなぐのは面倒である。タブレット型PCでは大きな画面でそのまま確認することができるため、準備が楽にできる。



マット運動 (体育)

3 「つくった」実践

(1) 「つくった」とは

『つくって伝える』学びの質的向上を目指したルーブリック連動型Web教材では「新聞」「プレゼンテーション」「ビデオ」「リーフレット」の4つのメディアについて、子どもたちの「つくった (つくって伝える)」を助ける教材を見ることができる。

本実践では「新聞」の教材を活用し、歴史新聞制作の実践について紹介する。

(2) 実践のねらい

現行の指導要領では「言語活動の充実」が改善事項の一番に挙げられ、社会科では「作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。」と書かれている。

本校のカリキュラムでは1学期の「大昔の暮らし」という大単元の最後に「歴史新聞をつくらう」という小単

元があり配当時間は1時間となっている。教科書の指導書をもとに実践してみると、「5年生の国語科で学んだ新聞制作の基礎が身につけていないこと」「1時間ではとても新聞が書けないこと」「記事は資料の丸写しばかりで、『再構成』や『考えを深めていく』ことができていないこと」など多くの課題が残った。たった1回の新聞制作ではねらい通りの実践をすることは難しいと考え、単元の要所で新聞制作を取り入れることとした。その際、効率よく学習を進めるために「つくった教材」を活用し、「つくった教材」の効果を検証することにした。

(3) 実践の概要

①題材『奈良の大仏』 「つくった教材」不使用

<ねらい>

題材を一つに絞ることで、お互いの新聞を比較しやすくし、よいところを学び合えるようにした。

<活動の流れ> 全1時間

1. 教科書、図書、インターネット等で調べる。
2. 調べたことを新聞用紙に書き込み(手書き)たり、絵や図などを貼り付けたりする。
3. グループ内で読み合い、付箋紙を使ってコメントし合う。

<反省>

- △相手意識が欠如。
- △新聞制作の基礎が身につけていない。
- △資料の丸写し。
- △時間超過。

②題材『伊能忠敬・本居宣長・杉田玄白』の中から

1人を選んで新聞をつくる。」

「つくった教材」を初めて使用

<ねらい>

3人の人物から自分が関心のある1人を選んで新聞をつくる。3人の偉業が社会に与えた影響について深く理解し、その感動を5年生に伝える。

<活動の流れ> 全2時間 (別紙「実践計画」参照)

1. 学習課題をつかみ、「つくった教材」を見て自分のめあてを立てさせ、調べ活動をし、取材ワークシートに書き込む。
2. 新聞をつくり、相互評価をする。

<改善点>

■相手意識を明確にするため「5年生に読んでもらう」ことを学習課題に盛り込み、5年生から感想をもらった。

■「再構成」を意識させるために一度「取材ワークシート」にメモをとらせることにした。

<反省>

△難しい言葉をそのまま使用したり、詳しく書きすぎて文字情報が多くなり、5年生に伝わりにくかった。



ネット検索で調べ、取材ワークシートに書き込む

③テーマ「戦争と人々の暮らし」

「つくった教材」で自己評価し、再挑戦する

<ねらい>

沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、敗戦に至る経緯の中で、一番伝えたいと思った事実を新聞にして5年生に伝える。

<活動の流れ> 全3時間

1. 5年生の感想を読んだり、「つくった教材」を見て自己評価（レーダーチャート図）をしたりして自分のめあてを立てる。
2. 教科書、図書、インターネット等で調べ活動をし、取材ワークシートに書き込む。
3. 新聞をつくり、相互評価をする。

<改善点>

■5年生の感想を読ませ、5年生に伝えるという目標達成の意欲をより大きくさせた。

■「ふり返りシート」で前回の新聞を「つくった」教材を見ながら自己評価させ、課題をもたせた。

■記事の要点を明確にするために、文が長くならないよう、1記事200文字の制限をつけた原稿用紙に下書きをさせた。



つくった教材を見ながら自己評価をする

(4) 考察

新聞制作を通して社会の学習内容の理解を深め、思考力、判断力を身につけていくことが社会科の本来の目的である。しかし、新聞制作の基礎が身につけていないために、ねらいとする社会科の力も高まらない。言語活動を充実していくために、まずは基礎基本を国語科でしっかりと習得し、それを活用していくことが大事である。

そこで、習得したことの要点をふり返り、効率よく学習を進めていくことにこの「つくった教材」が大変有効であった。今後も実践検証を重ねて、コンテンツを増やしたり改善したりして、言語活動を充実させていきたい。

4 おわりに

今後、教室に実物投影機や電子黒板や今回の事例のようにタブレット型PCが整備された環境になっていけば、ますますアナログとデジタルの融合が授業づくりの重要な要素になってくると思われる。全てをICT（デジタル）で行うのではなく、アナログのよさとデジタルのよさを見極めて活用することが上手なICT活用術ではないだろうか。その点、タブレット型PCはアナログに近い感覚で活用でき、アナログとうまく融合しての活用が期待されるICT機器だと思われる。